



～ブランドメッセージ～

見えないところにこそ、私たちのプライドがある

決算説明資料

2023年3月期

2023年5月10日

日特建設 株式会社

社 是

私たちは、見えないところにこそ、
誠実に技術を提供して、社会から必要とされる企業であり続ける。

経営理念

- ・ **使命 (Mission)**
安全・安心な国土造りに貢献する会社
- ・ **価値観 (Value)**
基礎工事における総合技術力と効率的な経営
- ・ **あるべき姿 (Vision)**
信頼される技術力に培われた、環境・防災工事を主力とした基礎工事のエキスパート

- 1.連結 業績サマリー P4,5
- 2.連結 売上高総利益率 P6
- 3.連結 工種別推移 P7,8,9
- 4.連結 貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書
. P10
- 5.連結 業績予想 P11
- 6.トピックス P12,13
- 7.研究開発活動 P14,15,16,17

1-①.連結業績数値 サマリー (単位:百万円)



◆受注高：前期比**105%**

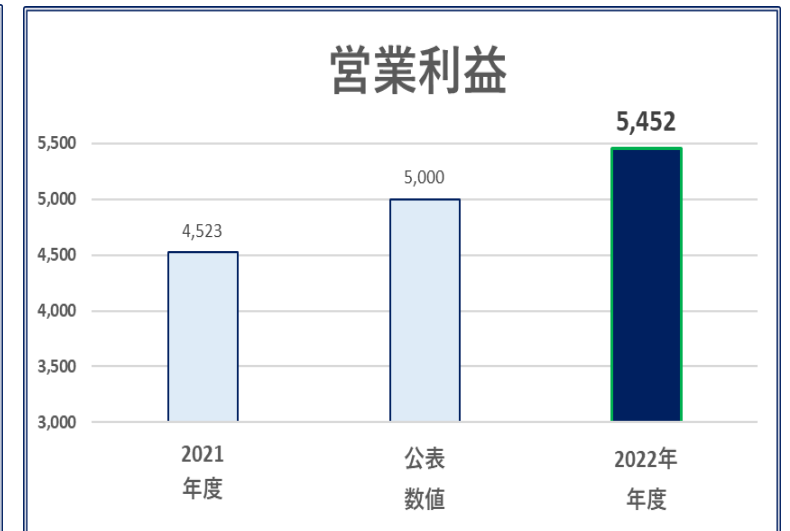
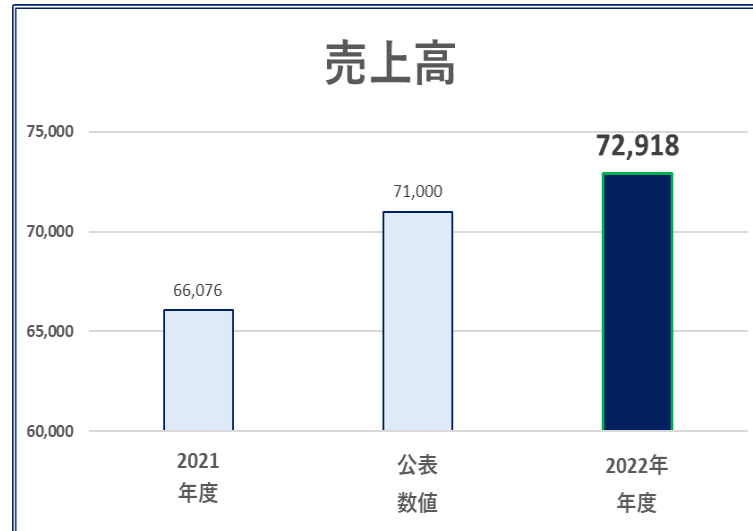
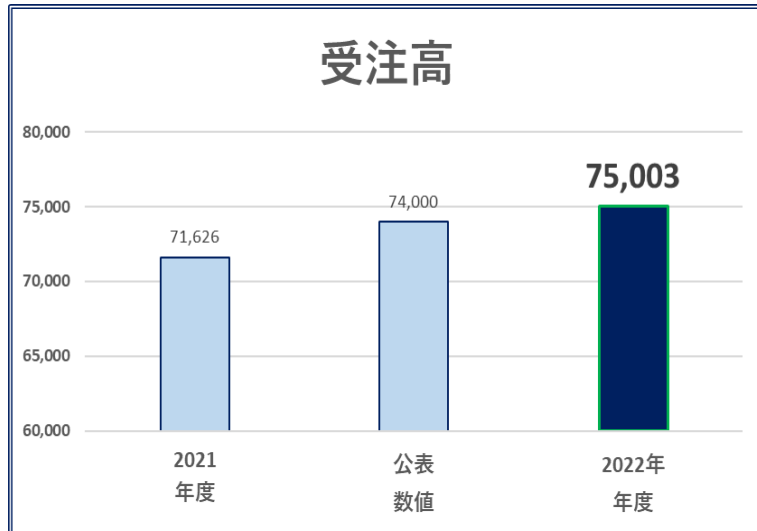
民間工事を中心に基礎・地盤改良工事の増加。

◆売上高：前期比**110%**

生産性の高い基礎・地盤改良工事の増加。

◆営業利益：前期比**121%**

給与等の見直しを含め計画していた販売費及び一般管理費の増加を売上高増加と工事利益率の改善により吸収し増加。



1-②.連結業績数値 サマリー (単位:百万円)

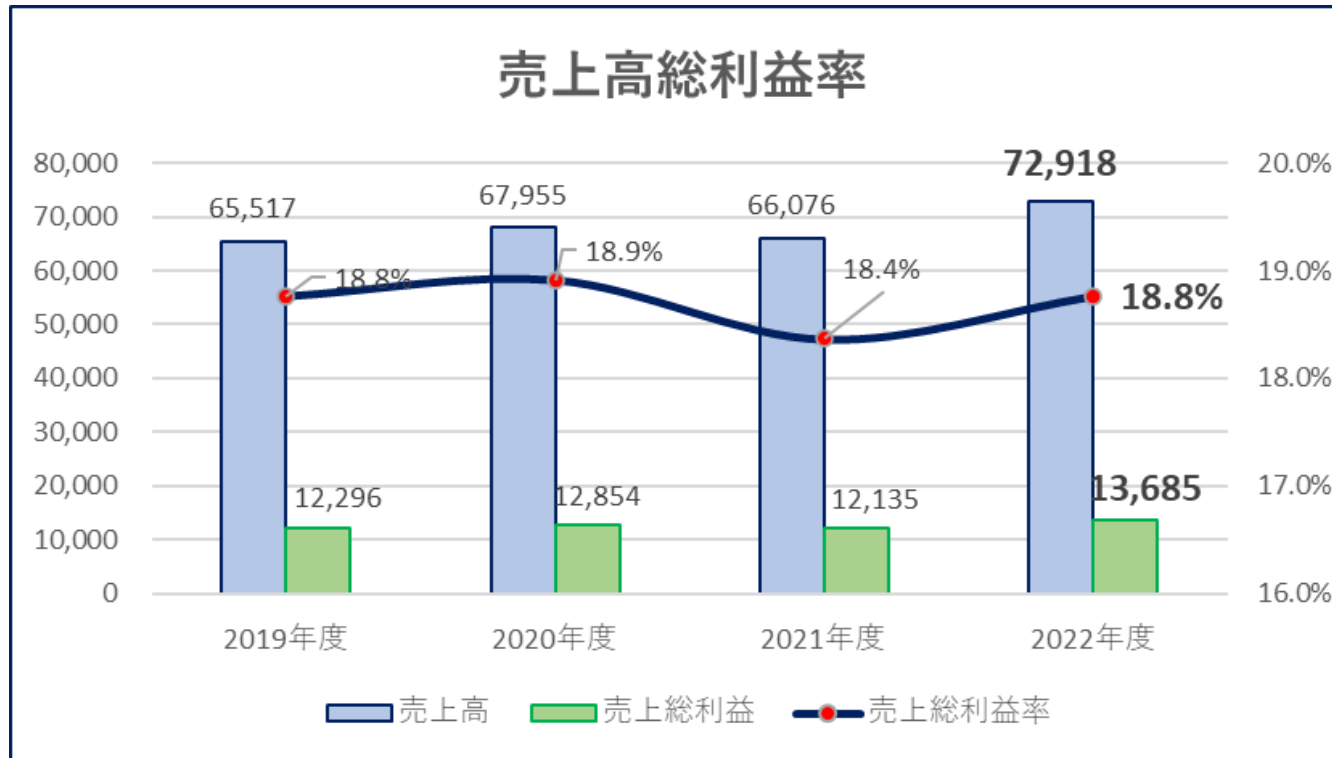


連 結	2021 年度	公表 数値	2022年 年度	対前年		対公表	
				差異	%	差異	%
受注高	71,626	74,000	75,003	3,377	105%	1,003	101%
売上高	66,076	71,000	72,918	6,841	110%	1,918	103%
完成工事 総利益	12,135	13,288	13,685	1,550	113%	397	103%
販管費	7,612	8,288	8,233	621	108%	△ 55	99%
営業利益	4,523	5,000	5,452	929	121%	452	109%
経常利益	4,626	5,000	5,463	835	118%	463	109%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,330	3,300	3,527	197	106%	227	107%

2.売上高総利益率(単位:百万円)

◆売上高総利益率：18.8%
(前年同期0.4%良化)

受注前のリスク検討及び予算管理の徹底。



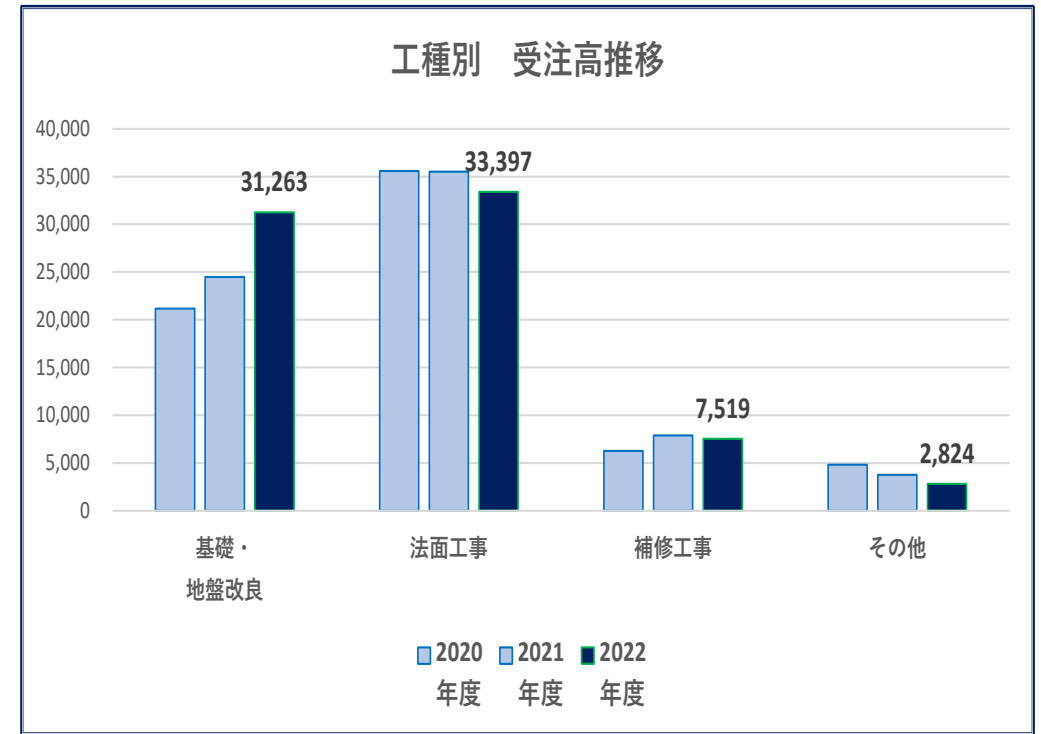
3-①.連結 工種別受注高 (単位:百万円)

◆基礎・地盤改良：312億円
(前年比 128%)

◆法面工事：333億円
(前年比 94%)

得意とする法面工事は受注高合計の40%以上を維持しつつ、目標としてきた生産性の高い地盤改良工事の増加は、運輸・電力事業等の国内民間事業と海外事業の大型地盤改良工事もあり全体の40%を確保。

連結 受注高	2020 年度	2021 年度	2022 年度	対前期	
				増減	%
基礎・地盤改良	21,182	24,469	31,263	6,794	128%
法面工事	35,591	35,505	33,397	△ 2,107	94%
補修工事	6,252	7,886	7,519	△ 367	95%
その他	4,821	3,766	2,824	△ 943	75%
合計	67,846	71,626	75,003	3,377	105%



3-②.連結 工種別売上高 (単位:百万円)

◆基礎・地盤改良：289億円
(前年比 124%)

◆法面工事：340億円
(前年比 102%)

全体的に前年以上の売上高を確保し、目標としてきた生産性の高い地盤改良工事は、運輸・電力事業等の国内民間事業と海外事業の大型工事もあり前年比124%と増加。

連結 売上高	2020 年度	2021 年度	2022 年度	対前期	
				増減	%
基礎・地盤改良	21,408	23,360	28,946	5,586	124%
法面工事	33,692	33,517	34,056	539	102%
補修工事	8,270	5,952	6,606	654	111%
その他	4,586	3,247	3,310	64	102%
合計	67,956	66,076	72,918	6,842	110%



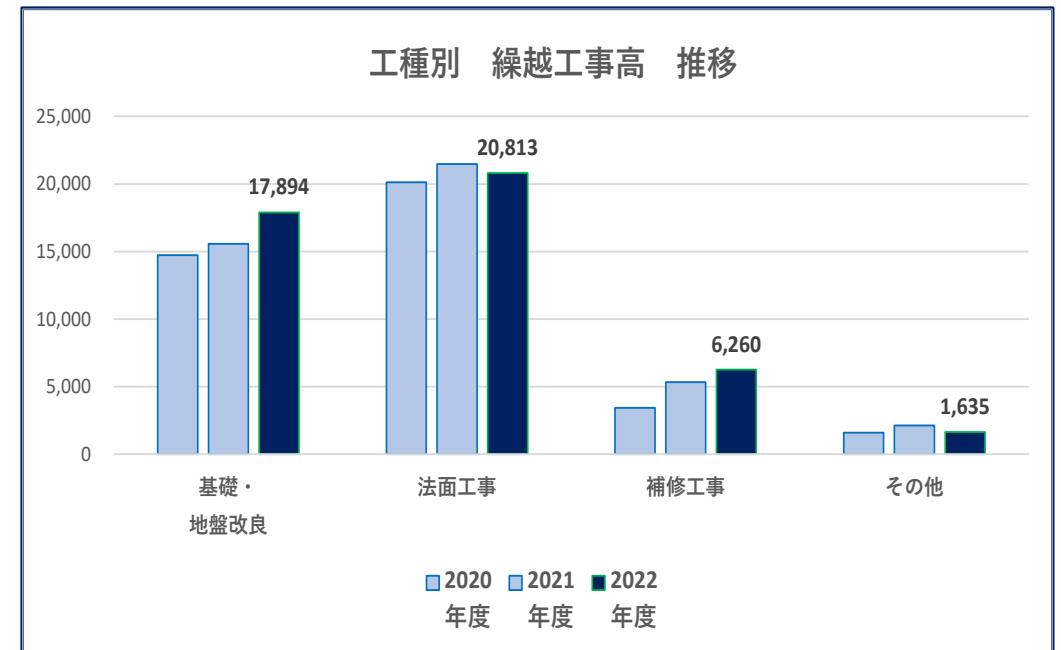
3-③.連結 工種別繰越工事高 (単位:百万円)

◆基礎・地盤改良：178億円
(前年比 115%)

◆法面工事：208億円
(前年比 97%)

地盤改良工事を中心に前年比105%の繰越工事高を確保。

連結 繰越工事高	2020 年度	2021 年度	2022 年度	対前期	
				増減	%
基礎・地盤改良	14,726	15,577	17,894	2,317	115%
法面工事	20,128	21,472	20,813	△ 659	97%
補修工事	3,426	5,347	6,260	913	117%
その他	1,606	2,121	1,635	△ 486	77%
合計	39,887	44,517	46,602	2,085	105%



4.連結 貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書(単位:百万円)

	2022年 3月期	2023年 3月期
流動資産	42,526	42,431
うち、現金預金	20,723	19,457
うち、受取手形・完成工事未収入金等及び 契約資産等	20,498	21,858
うち、未成工事支出金	301	284
固定資産	9,185	10,377
有形固定資産	5,787	6,430
無形固定資産	607	578
投資その他の資産	2,791	3,368
資産合計	51,712	52,809
流動負債	16,790	16,559
うち、支払手形・工事未払金等	11,921	11,539
うち、未成工事受入金	593	423
固定負債	4,311	4,122
負債合計	21,101	20,681
純資産の部	30,610	32,127
負債純資産合計	51,712	52,809

	2021年	2022年
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,750	2,659
うち、税引前四半期(当期)純利益	4,986	5,435
うち、減価償却費	507	583
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 23	△ 1,788
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,785	△ 2,171
うち、配当金の支払い額	△ 1,501	△ 2,165
現金及び現金同等物残高	20,723	19,457

5.連結 業績予想(単位:百万円)

連 結	2021 年度 実績	2022年 年度 実績	2023年 年度 予想	対前年		対前々年	
				差異	%	差異	%
受注高	71,626	75,003	72,300	△ 2,704	96%	674	101%
売上高	66,076	72,918	71,200	△ 1,719	98%	5,124	108%
完成工事 総利益	12,135	13,685	13,230	△ 456	97%	1,095	109%
販管費	7,612	8,233	8,200	△ 34	100%	588	108%
営業利益	4,626	5,452	5,030	△ 423	92%	404	109%
経常利益	4,987	5,463	5,050	△ 414	92%	63	101%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,330	3,527	3,350	△ 178	95%	20	101%

当社グループの特性として、平均3ヶ月工期の工事を年間2千件以上施工することで売上が構成されております。

また、期首の繰越受注残高は、短期間の工期工事が主体であるため、年間売上高の約半分程度に留まり、上期の受注実績が期末業績に影響を与えます。

初年度である2023年度（2024年3月期）の業績は、海外を含めた数件の大型工事が順調に進捗した前年度業績を下回る予想としておりますが、中期経営計画2023で3年間平均の営業利益を54億円としており、その目標に向かって全社一丸となり取り組んでまいります。

6-①. トピックス(自然災害復旧工事)

宮崎県：令和4年度 東九州自動車道 伊形地区災害応急復旧工事（その1）

2022年12月2日 自然災害発生

高速道路法面が崩壊し、延岡市道（近隣の生活道路）を塞ぎ、全面通行止め。

➡ NEXCO西日本より応急復旧工事の依頼。

2022年12月26日 復旧工事完了

➡ 災害発生より24日間で復旧活動を完了させた。



6-②. トピックス(新工法の現場採用)

岩手県：釜石地区法面防災工事

法面防災工事に伴うアンカー工事

施工前



施工後

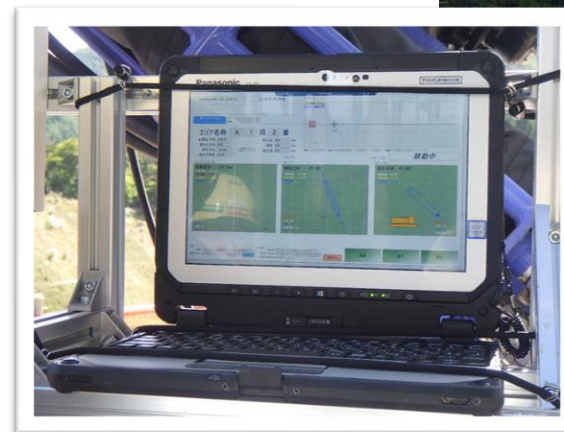


削孔機マシンガイダンスシステム「SGZAs(スグザシス)」

削孔機の位置・方向・角度をリアルタイムに高精度で計測し、削孔機を施工位置に自動誘導可能なシステムを使用した。

従来の方法に比べ、測量作業が不要となり、作業の効率化、品質の向上を図った。

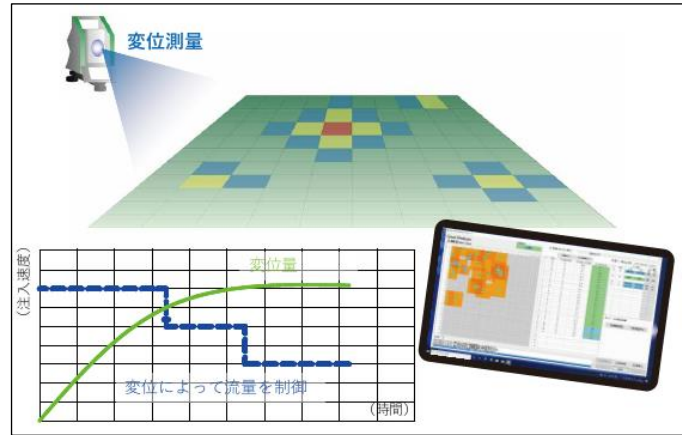
削孔機マシンガイダンス



モニター確認状況

7-①.研究開発活動 地盤改良強化

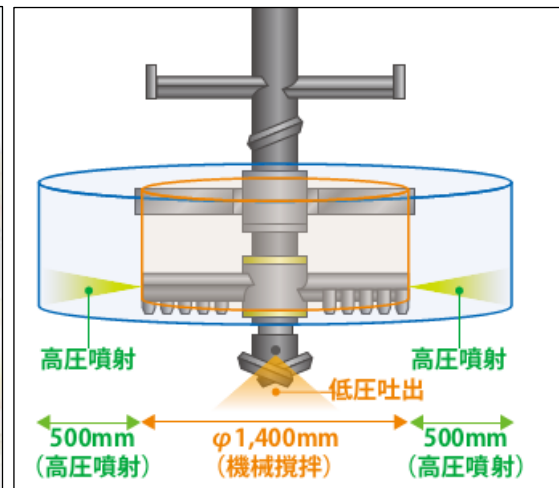
地盤改良工法の開発



変位抑制自動注入制御システム
Grout Producer

軟弱な地盤に建物や構造物を建設する場合は、地盤内に柱状の改良体を形成して強化を図る地盤改良が行われます。

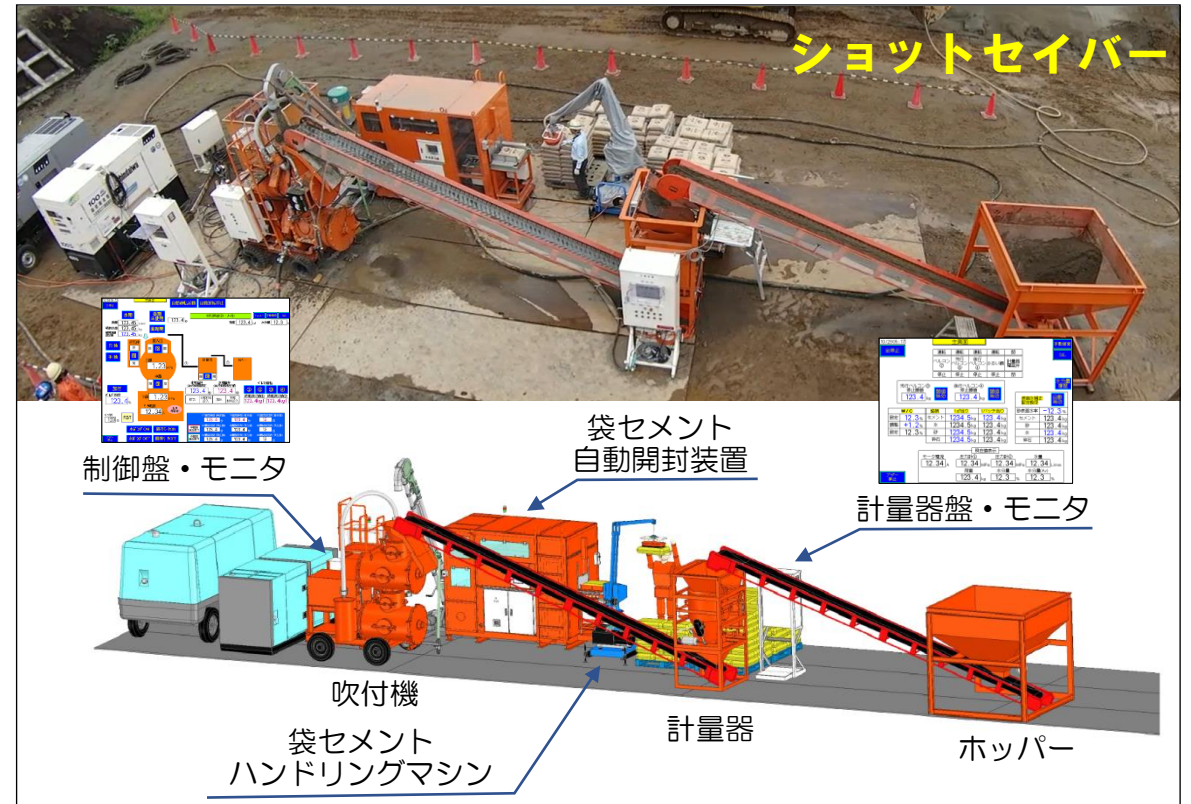
当社は生産性の良い「地盤改良工事の事業量増大」に取り組んでいます。高圧噴射攪拌工法、機械攪拌工法やこれらを組み合わせた技術、デジタル技術を活用した施工管理技術など、様々な地盤改良技術の開発を進め、地盤改良の量拡大につなげています。



高圧噴射併用機械攪拌工法
N. ロールコラム工法

7-②.研究開発活動 機械化・省力化

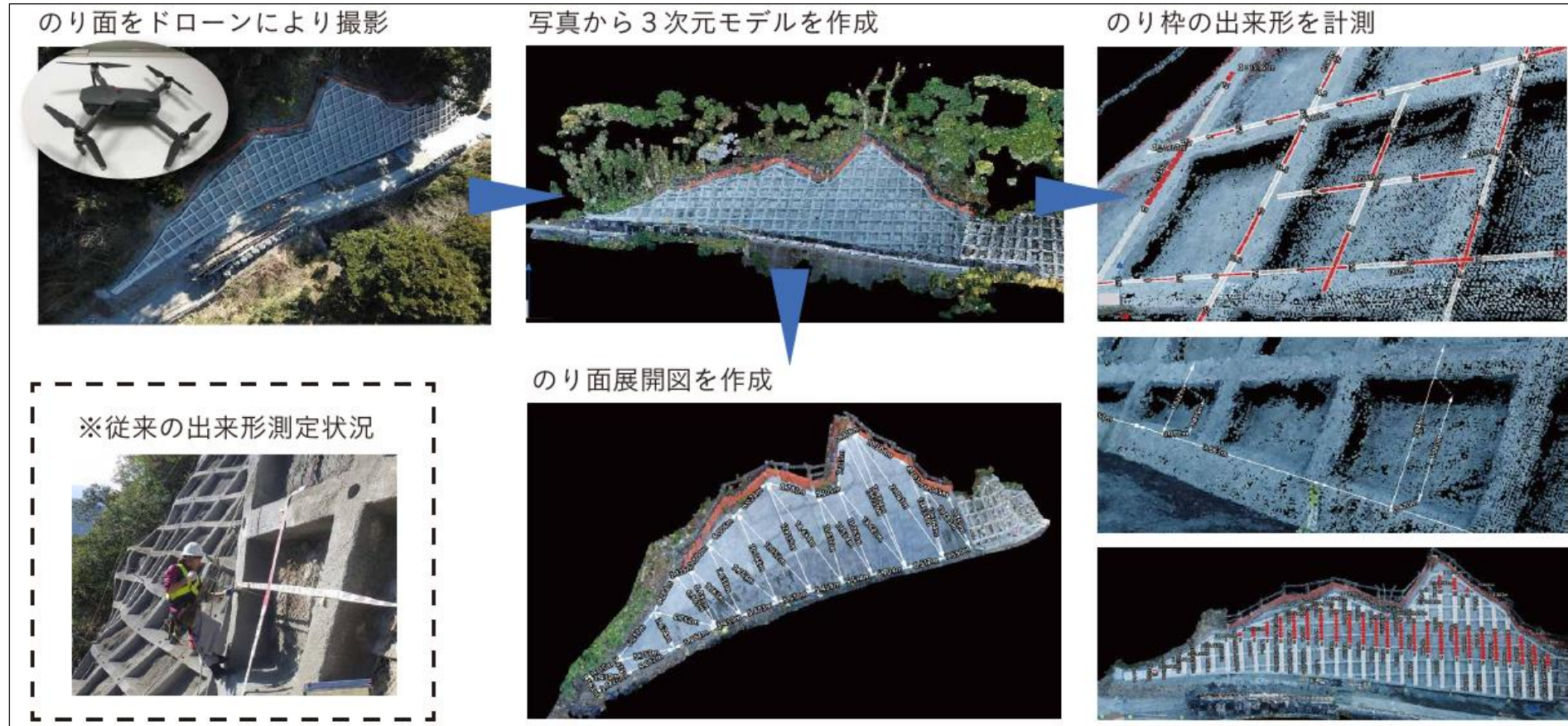
法面吹付工事の機械化施工による生産性向上



特殊な技能を要する法面吹付工事は、重労働で危険を伴う作業が必要です。この作業の機械化・省力化を目指し、遠隔吹付技術「スロープセイバー」、吹付材料自動供給プラント「ショットセイバー」を開発し、現場適用を進めています。今後はさらにAIを活用して、自動化・自律化を目指します。

7-③.研究開発活動 施工管理の合理化

3次元点群データを活用した法面工事の施工管理（ICT法面工）



国土交通省が進める「ICT法面工」に早くから取り組んでおり、開発技術を積極的にICT活用工事に適用しています。その成果をフィードバックさせ、さらなる高精度化、効率化を目指す開発も進めています。

7-④.研究開発活動 開発技術の現場展開

中期経営計画2020で新たに開発した技術の現場

地盤改良



N. ロールコラム工法
機械攪拌と高圧噴射攪拌を組み合わせて効率的に地盤を改良

2022 開発完了
2022.09 初の現場適用

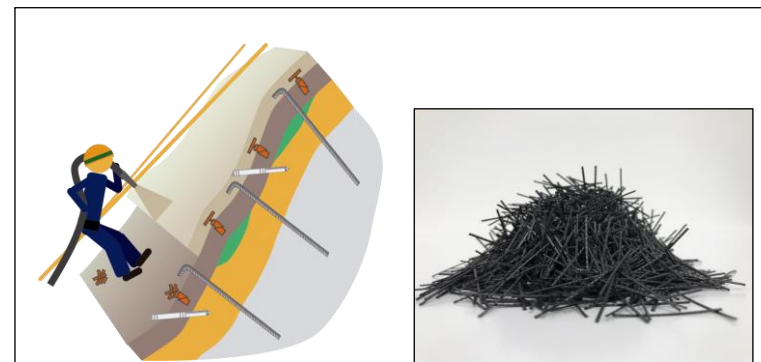
機械化・自動化



スロープセーバー
LiDAR技術により吹付厚さを測定しながら遠隔操作で法面吹付

2020 開発完了
2021～ 現場適用（4件）

法面補修補強



老朽化した吹付法面補修工法
「ニューレスプ工法」

エコBCファイバー
「ニューレスプ工法」に30%リサイクル材料を使用した補強繊維を適用

2021 開発完了
2022 全面切り替え